

僕は、城が好きです。大きくて格好いい城が好きです。三年生の夏休みに、父が小鷹狩城という城に連れて行ってくれると言ったので、僕は喜んで父の車に乗りました。でも、着いたところはただの山でした。しかし、ただの山ではありませんでした。空堀があり、斜面は段々になっていました。「格好いい・・・。」ぼくは、そう思いました。

四年生になり、日本を代表する城だけでなく、郷土の城についても知ろうと思い、コンピュータで調べました。そのページには、飛騨市の城がたくさん載っていました。古川城・小島城・百足城・黒内城・・・今まで知らなかった城の名前が次々とでてきました。「行ってみたい！」休日に行くことを決めました。どの城も、はじめに見た小鷹利城とよく似ていて、空堀や堀切があり、その町を見わたせる所にありました。そして、いろいろな所に細かな違いがある事に気がつきました。小島城には石垣、増島城には水堀がありました。姫路城や松本城といった日本を代表する城と飛騨の城は平城と山城という見た目で分かる違いがあるけど、同じ飛騨の城同士でもいろいろ違いがあることが分かりました。さらに調べると、戦国時代とその後では、山城で畝状堅堀が、石垣を多用する織豊系城郭となっていることが分かりました。大きさや美しさを求めた姫路城。少人数で守るため機能性や実用性を求めたのが飛騨の城なのかもしれません。

これは町でも同じことがいえると思います。この飛騨市の四つの町も、もとは「飛騨の山の中にある町」で同じような町だったけど、それぞれが独自に発展をしたことによって別々の文化のある町になっていったのです。それぞれの町が、「よく」発展したところを持っています。だからそれぞれの「よく」発展した所を尊重し合っていくことが大切なのだと思います。